

本年度の研究について

徳島県中学校教育研究会 技術・家庭部会
徳島県中学校技術・家庭科研究会

1 研究主題

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、
生活を工夫し創造する資質・能力を育む技術・家庭科教育
～見方・考え方を働かせ、生徒自ら問題を見いだす授業の創造～

○研究の背景

令和元年度末に、中学校3年生746名を対象として中学校技術・家庭科アンケートを行った。その結果、「生活や社会の中から問題を見いだして、課題を設定することができましたか」という設問に対して「できなかった」という回答が39.4%あり、どの設問よりも達成度が低かった。要因として、他の質問を参考にすると「これまで学習してきた内容を生かし切れていない様子」や「主体的な学びにつなげられていない様子」があった。

○令和2年度研究のねらい

「見方・考え方を働かせ、生徒自ら問題を見いだす力」を育成し、生活の中の様々な場面で活用することが、技術・家庭科の「生活を工夫し創造する資質・能力」を高めると考える。さらに、「見方・考え方を働かせ、生徒自ら問題を見いだす力」の育成が生徒の「よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築」につながると考える。そのため、生徒が問題を見つけるために、教師がどんな手立てをしたのかを明確にする。また、生徒がどんな問題を見付け、どんな課題を設定したのかを明確にする。

○研究の内容及び方法

昨年度より、新学習指導要領への移行が始まり、令和2年3月26日には、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料も発表されました。これまでの研究は、年間指導計画の修正や見方・考え方を働かせ生徒自ら問題を見いだす授業の導入について行ってきました。しかし、研究の目的や手段について統制がとれておらず、具体的な授業展開について見えてきていない部分があります。そこで、本年度の研究は、昨年度の内容を踏襲し、さらにより明確な内容にしたいと考えております。つきましては、本年度の研究のねらいと次の授業の流れをご確認いただき、報告内容の①～⑦について報告ください。

・授業の流れ（この流れで授業を行ってください。）

1. 教員が育成を目指す資質・能力を設定（生徒の何ができるようになるかを想定する）
2. 教員が見方・考え方を設定（該当学年に合わせ、各内容で働かせる主な見方・考え方を決定する）
3. 既存の生活や技術について理解する学習を行い、生徒が様々な見方・考え方を具体化
4. 生徒が見方・考え方をもとに問題を見だし、課題を設定
5. 生徒が課題解決のための計画・検討
6. 生徒が課題解決のために実践（制作・製作・育成）（調理・製作・調査・交流活動）
7. 課題解決のために実践した内容を生徒が評価・改善
8. よりよい生活や持続可能な社会の構築にむけた問題解決についての検討

・報告内容

- ①育成を目指す資質・能力を何に設定したか（○○ができるようになる）
- ②主となる見方・考え方を何にしたか
- ③その項目に生徒が着目できるようにどんな資料を使ったのか（例：「公民の資料集のこのページを使った」、「この新聞記事を最初に見せた」や、「最初に、小学校の学習を振り返って、問題点を見いだした」など）
- ④そこからどんな問題を見だし、課題を設定したのか
- ⑤課題に対してどんな解決策を構想したのか
- ⑥課題解決のために実践した内容をどのように評価・改善し、表現したのか
- ⑦よりよい生活や持続可能な社会の構築（選択・管理・運用）のためのテーマに何を用了か

2 令和6年度中四国大会（徳島大会）に向けての計画（骨子）

統一大会での内容

令和3年度の研究では、「報告内容」①～⑦に上乘せして、評価規準を作成してもらうため、令和3年度統一大会では、「授業の流れ」の3～7について、作成した評価規準を用いた授業を実践し、検証する。令和5年度統一大会では、各内容の複合的な課題解決の授業について明確にするのと同時に、「授業の流れ」の8について作成した評価規準の検証を行う。